

VOS

VITALITY, ORIGINALITY AND SERVICES

長岡技術科学大学広報

APR. 2005 No.127



新入生歓迎!!

特集



VOS

長岡技術科学大学広報

今月の表紙

2005

No.127

CONTENTS

- 3
2
19
- 特集／新入生歓迎!!**
- ・平成17年度CAMPUS DIARY
 - ・キャンパスマップ
 - ・学長挨拶、理事・副学長挨拶
 - ・安心充実の学生生活
 - ・教養教育
 - ・JABEE
 - ・先輩より新入生へのメッセージ
 - ・サークル一覧
 - ・サークルより新入部員募集
 - ・留学生年間行事
 - ・先輩留学生から新入留学生へのメッセージ
 - ・留学生のホームステイ体験記
 - ・留学生等スキー研修報告

- 20
- 新潟日報文化賞**
- 21
- 卒業生だより**
- 22
- トピックス/長岡高専校長ご挨拶**
- 24
- 平成16年度進路状況一覧
編集後記**



特集／新入生歓迎!!

VOSの由来

本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。

平成17年度 CAMPUS DIARY

学 生 行 事

1 休講措置を伴う学生行事

- 第25回技大祭
準備・前夜祭 9月16日(金)(休講)
本祭 9月17日(土)
本祭・後夜祭 9月18日(日)
後片付け 9月19日(月)(休日)

2 休講措置を伴わない学生行事

- 春季球技大会 5月21日(土)
- 第24回運動会 6月11日(土)
(雨天の場合6月18日(土)に延期)
- 秋季球技大会 9月24日(土)

学 事 日 程

第1学期 (4月1日～8月31日)

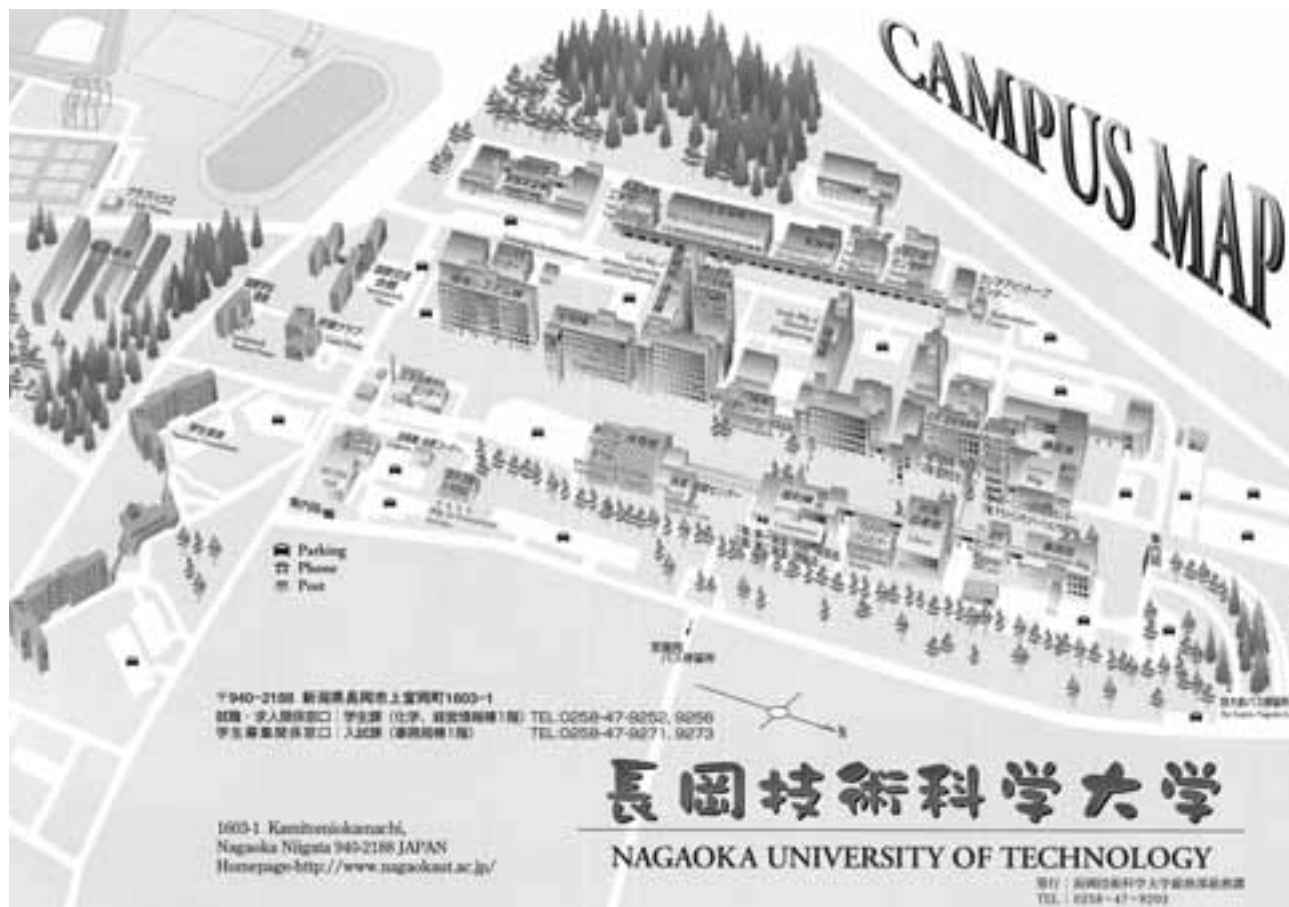
春期休業 4月1日(金)～4月4日(月)
入学式 4月5日(火)
ガイダンス 4月5日(火), 4月6日(水)
授業開始 4月6日(水)
【学部2,4年及び大学院】
授業開始 4月11日(月)
【学部1,3年】
授業終了 7月29日(金)
夏期休業 7月30日(土)～8月31日(水)

第3学期 (1月1日～3月31日)

冬期休業 1月1日(日)～1月7日(土)
授業開始 1月10日(火)
集中講義等終了 1月31日(火)
授業終了 2月28日(火)
卒業式・修了式 3月24日(金)
春期休業 3月26日(日)～3月31日(金)

第2学期 (9月1日～12月31日)

授業開始 9月1日(木)
(但し, 9月20日(火)は通常の月曜日の授業日,
9月22日(木)は通常の金曜日の授業日とする。)
開学記念日 10月1日(土)
授業終了 12月22日(木)
冬期休業 12月25日(日)～12月31日(土)





積小為大

長岡技術科学大学長 小 島 陽

新入生の諸君、入学おめでとう。長岡技術科学大学の教職員を代表して、歓迎のお祝いを申し上げます。

ここ長岡は、越後三山をはじめ、東山、雄大な信濃川を見渡せるなど、自然が美しく調和した地です。また、四季がはっきりしていることから、一年を通してこれらの美しい景色を観ることができます。本学は喧騒な都会にある大学と違い、諸君が勉学するには、好都合な環境にあります。これから技大で過ごす数年間は、諸君の一生にとって、かけがえのない青春の時であるため、悔いのない、実りある学生生活を送ってください。

さて、本学は、実践的な技術の開発を主眼とした教育・研究を行う工学系の大学として、新構想のもとに設置されました。本学は、「技術科学」すなわち“技学”を創出し、それを担う創造的・実践的な技術者・研究者の養成を行い、また、これらを通じて社会との連携を図ることを基本理念としています。20世紀後半の著しい科学技術の進展の後を受け、いま21世紀になり、新しい時代へ乗り出そうとしています。人々を真に豊かにする社会を作り出さなければなりません。言うまでもなく、このためには、科学技術の正しい進展が不可欠であり、その社会を建設する担い手は、君たち若い諸君の力です。

今日から、両親と離れ、新しい生活を送ることとなる諸君も多いと思います。特に、留学生諸君は、遠く故国を離れ、一人暮らしをすることになります。これからの大学生活に期待するとともに、不安も持っていることでしょう。我々教職員一同は、教育・研究のみならず、生活指導を含めて、最大限の努力をして、諸君の勉学・生活推進に協力します。

本学は、来年10月に開学30周年を迎えます。昨年4月から本学も、法律により設立される独立した国立大学法人の一機関として衣替えしました。本学も特色をだし、存在感をアピールしなければなりません。お蔭様で、本学は、研究面では、世界的研究水準にあるとして、「21

世紀COEプログラム」で2件、また、教育面では、特色ある教育プログラムとして「教育GP」、「現代GP」が採択されています。諸君の勉学の方は整っています。

「大学」という場合は、よく学ぶことは当然です。さらに、広い視野でものごとを判断できる人となってください。また、大学は、勉学の間であると同時に人間形成の間でもあります。学内の友達だけでなく、広く学外の人達と付き合い、沢山の友達を作り、大いに交友を深めてください。本学は、普通高校、工業高校、高専、社会人など出身がことなる学生が多いことも特長ですが、国内ばかりでなく、世界各地から集う留学生も多くいます。また、学外には、よい意味で、我々とまったく異なる考えを持っている人が大勢います。工学系の人には、とかく「井の中の蛙」、「専門バカ」に陥りやすいものです。本日から大学生になったのですから自分で新聞を購読し、社会の動き、また、世界の動きも気にしてください。技大にいる間に、何か一つ、いや、二つでも三つでも好きなものを見出してください。語学をマスターする、クラブ活動に熱中するなど目標をたて、それに、邁進してください。中途半端はいけません。

ものごとを進めるためには、やはり、コツコツやる必要があります。「積小為大」すなわち「大きなこと」をするには「小さなこと」を積み上げる必要があります。

「小さなこと」を積み上げてはじめて「大きなこと」が出来上がります。

大リーグのイチロー選手が262本のヒットを打つ大記録を達成しました。イチローが262本ものヒットが打てたのは、毎日、一生懸命どうやって打ったらヒットが生まれるのかを研究し、練習を繰り返して、努力を積み上げた先に結果がついてきた、と言うのです。あれだけの一流選手でも、大記録の裏には血のにじむような努力をしているのです。毎日、毎日ベストを尽くすような環境、そこに新しい発見があり、小さなことをコツコツたくさ

ん積み上げていくことが大きな成果になるものです。

「継続は力なり」。ラジオ・テレビの15分の英会話番組を、休まず、毎日、聞けますか？休まず、毎日、ジョギングを続けられますか？

何事にも努力をしてやり遂げたあとには、必ずや、満ち溢れた達成感と大きな収穫があるはずです。

さて、本学では、設立以来、モットーとしてVOS, すなわち, Vitality (活力), Originality (独創力), Services (世のための奉仕) をかけ、“考え出す大学” —Ideas University— を目標にしています。今まで、小学校、中学校、高等学校、あるいは高等専門学校と、諸君の多くは、知識を詰め込む暗記型の勉強をしてきたと思います。頭に詰め込まれた多くの知識は、それが様々

な情報の基盤となり、それなりには役に立ちますが、暗記の知識からは、新しいものは生まれにくいものです。これからの技術者は新しさ (Originality) が求められます。大学では、これから、工学の幾つかの基本原則、基本事項を理解し、把握することが出発点となります。複雑な事象はこれを細分化し、単純化して整理すれば、単なる丸暗記よりもはるかに価値のある知識になります。この作業は“考える” ことによって行うことができます。

人類の繁栄に貢献し得るために、自分で考え、自立して行動できるような技術者・研究者となるよう、また、ここ長岡での数年が充実した日々となることを祈念して、入学式の祝辞と致します。



火の鳥

理事・副学長(教務・研究担当) 丸 山 久 一

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本学の新入生は、高校からの学部1年生の他に、ベトナムのハノイ工科大学からツイニングプログラムで入学する2年生、工業高等専門学校や短期大学から入学する3年生と多岐にわたっています。勿論、大学院の修士および博士課程にも多くの新入生を迎えています。いろいろな分野からいろいろな学年に学生を受け入れて教育を行うのが本学の特徴です。まずは、皆さんの新しい門出に乾杯いたします。また、皆さんを支えているご両親、ご家族の方々にもお祝いを述べたいと思います。

青い空、まだ白い雪を頂いている山々、芽を吹き始めた木々。これらを見ていると、高揚感に思わず身震いをするともに、厳しかった冬を忘れます。今日のキャンパスを見ていれば、昨年10月23日に発生した中越地震も本当にあったのかと思うほどです。中越地区では、被災からの復興に向けて懸命の努力を続けている人々が多数おりますが、本学では幸いなことに地震の影響は最小限に留まっていました。実験・研究施設には復旧までに相当の金額と時間を有したのも多数でございましたが、建物の損傷は軽微で、人身の事故等はほとんど皆無でした。学生諸君はもとより、教職員の復旧にける努力には並々ならぬものがあり、地震後1週間で授業を再開し、12月末までに無事2学期を終了しました。

手塚治虫氏は1960年代にアニメの世界を新たに切り開いたことで有名ですが、彼の代表的な作品に『火の鳥』

というのがあります。輪廻の思想を背景に、日本の歴史を縦糸として、人間の生き方を様々な描いたものです。一人ひとり、生まれて成長し、社会に何かの貢献をして死んでゆくのですが、相互に重なり合って繰り返しながら幾世代にもわたって続く物語です。過去、現在だけでなく、未来編もあります。

長岡に春を迎える時、“復活” をモチーフとした『火の鳥』をいつも思い出します。特に、今年の春は格別です。地震の後には19年振りの豪雪でした。二重の試練を乗り越えて迎えた春、“復活” の原動力となる新入生は一段と頼もしく見えます。

さて、大学にとって“復活” の春は、皆さんにとっても“新生” の春です。一旦社会に出て再び大学の門を叩いた方には、“再生” の春です。自分自身の内から湧いてくる活力を武器に、未知なる海に漕ぎ出して下さい。本学には優れたナビゲータ(教員)が多数おります。皆さんの興味がどの分野であろうとも、適切な海図を示し、補助動力ともなってくれます。

本学で皆さんの進む道は、勿論、技術の獲得と新しい技術の創造です。しかし、人として生きてゆく上で、また、国際社会で活躍するためには、確とした知性を持つことも大変重要です。本学では、その為の教養教育のプログラムも充実させています。

さあ、『火の鳥』となって、“復活”、“新生” を成し遂げよう。

安心・充実の **学 生 生 活**

クラス担当教員・アドバイザー教員が 君たちを支えます。

新入生，在学生の皆さんが学生生活を安心して過ごし，充実したものにしていけるよう，大学は学部学生に対し，クラス担当教員，アドバイザー教員を配置しています。

学習や進路のこと，生活上の不安や悩みごとなど，教員がどんなことでも相談にのります。自分のクラス担当教員，アドバイザー教員を確かめて，気軽に研究室を訪ねてください。

クラス担当教員

担当クラスの修学，その他学生生活全般に対する指導助言を行います。

アドバイザー教員

平成17年度から，クラス担当教員のほかに，きめ細かな指導助言が行えるよう新たにアドバイザー教員を置きました。5～6人程度の少人数の学生を1人の教員が担当し，クラス担当教員と連携して学生生活全般にわたって相談に応じます。

個々の学生のアドバイザー教員の氏名は，原則として毎年度4月に，1年生は学務課から，2年生から4年生は各課程から，掲示等で連絡されますので確認してください。相談は，アドバイザー教員が日時をあらかじめ設定する場合がありますが，次のような相談をしたい方は，自分から気軽にアドバイザー教員に相談してください。



例えば こんな時

将来を考えた履修科目の取り方を相談したい。

授業が理解できない，ついていけなくて困っている。

将来の進路について悩んでいる。

オフィス・アワーを活用しよう

教員は特定の時間帯をオフィス・アワーとして設け，その時間は研究室に在室して，担当科目に関する学生の質問や相談に応じることにしています。活用して下さい。



授業の合間,お昼休みにゆっくり過ごせる スペースを紹介します。



附属図書館1階自由閲覧室



総合研究棟2F自学自習室



福利棟1階ホール



総合研究棟3階学生自習用パソコン室

総合研究棟各階
リフレッシュラウンジ附属図書館3階
グループ閲覧室

講義棟1階学生ホール



附属図書館3階開架閲覧室

学生相談室からのご案内です。

体育・保健センター内の『学生相談室』において、学生の身体的な健康相談及び精神的な種々の悩みについての相談を受けています。

身体的な外部、内部にわたっての疾患、悩みはもちろんのこと、正課・研究・課外活動・その他学生生活全般にわたっての悩み事について常時相談を受けています。

利用方法等

<相談スタッフ>

- 体育保健センターのスタッフ 3名
- 外部の精神科医 1名
- 外部のカウンセラー 1名

<相談日>

- 平日（月曜日～金曜日）8時30分～17時00分
（但し、祝祭日、年末年始の休業日は除きます。）

基本的には毎週火曜日が学生生活全般にわたっての相談日で、第2、第4木曜日が精神的問題の相談日となっていますが、来学日以外でも、体育・保健センターのスタッフに常時相談を行うことができます。



カウンセラー

ふくま めぐみ

福間 芽美

（親業訓練インストラクター
日本教育心理学会学校心理士）

曜日・時間:毎週(火曜日)12:00～16:00
場 所:体育・保健センター学生相談室
電 話:0258-47-9827
カウンセラーが電話に出られないけれど
予約したい場合:0258-47-9824
メールアドレス:
kokorokara@jcom.nagaokaut.ac.jp

学生支援センター

学生支援センターは学生生活全般におけるあらゆる相談に応じる「なんでも相談室」です。また、ボランティアの募集も行っています。

困っていることはありませんか？

一人で悩まず気軽にご相談ください

【修学について】

- 授業の履修方法（単位のとり方、時間割の組み方）が分からない
- 授業が理解できない、ついていけない、研究がうまく進まない
- 進路変更したい ○教員・研究室のことで悩んでいる
- 休学・退学したい、他大学に進みたい

【将来について】

- 大学院に進むかどうか迷っている
- 進むべき進路が見つからない
- 将来や自分の生き方に不安を感じる
- 就職活動の方法等が分からない

【身体・心の健康について】

- 友人ができない
- 異性、先輩・後輩を含めて人間関係で悩んでいる
- 何もやりたくない ○性格の悩みがある
- 朝起きたときに大学に行く気力がでない

【日常生活について】

- サークル活動で悩んでいる
- アルバイトのことで悩んでいる
- 入学科、授業料の免除、奨学金の申請方法がわからない
- 盗難にあった ○セクハラをうけた
- 一人暮らしがうまくできない ○毎日がおもしろくない

場 所 総合研究棟1階 TEL0258-47-9257

受付日時 月曜日から金曜日（祝日を除く）10:00～12:00/13:00～15:00
（上記時間外は学生支援課でも受付ています。）

世界に羽ばたく指導的な技術者となるために 本学の教養教育の目指すもの

中 村 和 男

(教養教育専門部会長・経営情報系 教授)

地球環境問題の一つにフロンガスがあります。フロンは冷媒や噴射剤などに適した画期的な物質として開発され、1930年代の市場投入から1960年代にはその排出量も急増しましたが、1970年代には有害紫外線を防ぐオゾン層の破壊が明らかになり、生物への悪影響が人類の深刻な課題となりました。

また、米国のスペースシャトルは宇宙開発において大きな成果を挙げてきましたが、1986年1月に起きたチャレンジャー号の打ち上げ直後の爆発では、技術者がその危険性を知りながらその判断を打上げの最終決定に反映させることができなかったことが重大な要因であったとされています。

このように人類の諸活動は科学技術に支えられ、大きな発展をとげてきましたが、複雑かつ大規模化し、あらゆる面でグローバル化が進む中で、それらは地球環境問題等の危機を産み、また社会的モラルへの対応責任の欠如をもたらすなど、まさに技術のあり方が問われているのです。これらの問題意識をもちながら、果敢に諸課題に挑戦してゆく指導的な技術者を育てて行くためには、専門教育のみならず時代に即した教養教育が求められているのです。

本学では、その建学時から現在に至るまで、学部・大

学院の6年間（あるいは学部3年からの4年間）を通して一貫した教養教育を実施してきました。技術者に求められる教養とは何か、本学の教育目的に沿ってその7つの理念を以下の(A)～(G)に掲げます。

- (A) 技術科学を取り巻く人間、社会の諸事情を理解するための広い知識とその活用能力を育てる
- (B) 技術者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもち、社会に対して説明してゆく能力を育てる
- (C) グローバル化社会での円滑なコミュニケーション、社会的活動方法に関する資質を育てる
- (D) 社会変革の中で、新しい情報を受容し常に自己を鍛え、向上させるのに必要な基盤的能力を育てる
- (E) 自然科学に関する基本的知識・能力を踏まえて、技術の背後にある現象を深く理解する力を育てる
- (F) 新たな領域を開拓し創造してゆくための、課題探究力、批判力、発想力、学際的思考力を育てる
- (G) 企業や社会における指導的な技術者に求められる資質を育てる

ノーベル化学賞を受賞された野依良治先生も国立大学法人への期待に関する一文の中で「学部教育は…まずは優れた知性と感性をもった責任感ある日本人を育てるべきである」と述べておられます。



技術者のための教養教育として育みたいさまざまな資質（英文字は本文中の7つの理念に対応）

本学のJABEE認定と 今後の取組みについて

福澤 康

(JABEE対応検討部会長・機械系 教授)

産業界でのアンケート調査によると、現状の大学新卒者の問題点は、(1)問題設定能力の不足、(2)基礎学力の不足(数学、物理、化学、生物、英語によるコミュニケーション力、ディベート力等)である。また、技術者として必要なことは、国際競争力、社会的責任を担うことであるとの指摘がある。このような産業界の要望を背景に、高等教育機関における技術者教育の質保証と国際同等性の確保を目的として、1999年にJABEE(日本技術者教育認定機構)が発足した。この機構の特徴は、技術者教育プログラムの認定に関する民間組織で、技術系学協会・産業界の教育者・技術者の目で高等教育機関の教育プログラムの内容を審査することである。

認定されたプログラム(各課程に対応する分野別)は公表され、その修了生全員は各プログラムの定める学習・教育目標を達成していることが社会的に認知される。2003年度までに認定されたプログラムは約180である。本学では、工学部機械創造工学課程、工学部建設工学課程の2プログラムが2003年度に認定されている。2004年度には、材料開発工学課程が受審した。2005年度には、電気系と環境系が受審を予定しており、今後全課程で受審査することが計画されている。

審査は、5～6人の審査員が実際に来学して、予め提出した書類を元に、その根拠を調べることになっている。皆さんのレポート・答案・課題研究の提出物等もこの根拠の1つとなります。プログラム作成は各課程の教員が行うが、実施審査では学生、OBの面接もある。この際、各課程の教育・学習目標について聞かれることがあるので、履修案内にある目標はできるだけ目を通して覚えてください。各課程主任が指導しますが、全目標が卒業までに修得できるように講義を選択しなければなりません。専門教科のシラバスには、各教科の学習目標に対応する記号が記されていますので、参考にしてください。また、JABEEは技術者倫理に関する理解力を強く求めています。全員必ず技術者倫理に関する科目は修得してください。なお、2005年度入学者に対しては、3、4年での必修科

目となりました。

認定されたプログラム修了生には、修習技術者の(技術士補に登録できる)資格が与えられ、技術士1次試験が免除されます。また、認定プログラムに対する産業界の認識が高まるにつれ就職試験での優位性も期待されます。



図1：JABEE修了認定書

認定プログラム課程修了者には、図1に示すJABEE修了認定書を学長名で授与されます。将来技術士を志す場合には、必要な書類となりますので卒業証書と共に保存してください。JABEEが2005年中にワシントン協定に正式加盟できれば、各プログラムの国際同等性が保証されることになり、国際的な場では重要な資格となります。勉学に関する記述ばかりでしたが、楽しく学生時代を過ごすことも重要です。将来の目標を定め計画的に学生時代の時間を活用してください。

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「どう考えていますか？」

三 富 圭 輔

(クラブ連絡会会長・機械創造工学課程3年)



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

早速ですが、皆さんはどのようなキャンパスライフを思い描いていますか？勉強が第一だとは思いますがそれだけでは物足りないと思います。そこで皆さん、色々と考えているとは思いますが、ここで私が一つ皆さんにお勧めしたいことがあります。それはサークル活動です。当大学には体育系、文化系あわせて40以上のサークルがありその中にきっと皆さんの興味があるサークルがあると思います。少しでも面白そうだな、と興味を持ったサークルがあれば一度行ってみる事をお勧めします。サークルに入れば他の課程や、違う学年の方と知り合うことが

でき友好範囲が広がり、その仲間と共になんか、ということとはきっとよい経験になると思います。そして皆さんの大学生活をより充実したものにしてくれると私は考えます。

ところで、クラ連では春・秋の球技大会や看護学校との合同運動会等の行事を開催していますので、皆さんぜひ参加をして友達やサークルの仲間との友好を深めてください。

平成17年度長岡技術科学大学サークル一覧

体育系(29団体)		文化系(15団体)
1. サッカー部	16. ソフトテニス部	1. 吹奏楽部
2. 硬式テニス部	17. 少林寺拳法部	2. 無線部
3. ラグビー部	18. サイクリングクラブ	3. パピューミュージッククラブ(PMC)
4. 剣道部	19. 山岳部	4. 茶道部
5. 自動車部	20. 合気道部	5. 理科学研究会
6. 柔道部	21. 実戦空手道部	6. しゅがく
7. 陸上競技部	22. スキー部	7. アーケードゲームラボラトリー(AGL)
8. バレーボール部(男子)	23. 弓道部	8. 航空部
9. バレーボール部(女子)	24. 水泳部	9. 悠久太鼓愛好会
10. バスケットボール部	25. 山野草会	10. 長岡技術科学大学青年赤十字奉仕団
11. バドミントン部	26. ヨット部	11. How to ART
12. 釣り部	27. 大自然部	12. 知音サークル
13. 卓球部	28. フットサル愛好会	13. 模型部
14. 準硬式野球部	29. スノーボード部	14. ベンチャークラブ
15. アメリカンフットボール部		15. 写真部

計44団体

新 入 部 員 募 集

How to ART

早 川 友 明 (電気電子情報工学専攻1年)

こんにちは。How to ARTは、大学祭の作品展示、学内での作品展示、雪像作りなどを行っています。作品のジャンルは問わず、自分の好きなときに好きなものを好きなだけ制作しています。自分の心に秘めたものや、社会に対してのモヤモヤなどを、皆さんも作品にぶつけてみませんか？

詳しくは構内に掲示してある部活紹介ポスターをご覧ください。入部希望の方、ご連絡をお待ちしております。

※部活の掛持ちOKです。



本年制作した雪像

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「人生の宝」

中 屋 和 英

(機械創造工学専攻2年)



新入生の皆さん「ご入学おめでとうございます。」本学は全国（世界中）からたくさんの人達が集まってきました。学生生活ではその個性豊かな友人や経験豊かな先輩方から大いに影響を受けることと思います。人間生きることが一人でできるかもしれませんが、友達や先輩方と意見を交えることで自分の考えがまとまり、自分一人では考えもつかないことが発見できることがあります。また、みんなとだったら出来ることがたくさんあります。そうして実りある充実した学生生活を送って欲しいと思います。そして、ここでできた友人達はこれからの長い人生の中で必ず助けになってくれることでしょう。まさ

しく人生の宝です。またサークルやアルバイトをしてみてはどうでしょうか。特にアルバイトでは学校にいないタイプの人達が（女性も）たくさんいますので趣味や日々の行動範囲に変化があり、人生の幅を広げてくれるでしょう。

最後に忘れてはいけないことは、私達は学生であり学業をおろそかにしてはいけないということです。学生生活は非常に自由であり自らの意思ですべてを決定します。自由には大きな責任が伴うことを忘れずに、自らの夢に向かってがんばってください。

新 入 部 員 募 集

バレーボール部男子

青 木 雄 紀 (機械創造工学課程4年)

新入生の皆さん入学おめでとうございます。バレーボール部では週3回、技大体育館で活動を行っています。また、各種大会、ビーチバレー大会などに参加し、技大祭には模擬店も出店しています。経験者はもちろん初心者でも大歓迎です。きつい練習というよりは、楽しむ練習なので気軽に体育館まで足を運んでみてはいかがでしょうか？みなさんぜひ来てみてください。い。

大 自 然 部

高 橋 悠 (経営情報システム工学課程3年)

大自然部は主にアウトドア活動を行っています。キャンプや登山だけではなく、スキーやスノボなどのウィンタースポーツや温泉掘などの活動も行っています。この他にもミーティングなどで活動内容を決定していますので自分でやりたいと思ったことを提案することも出来ます。キャンプや登山の経験がない方でも問題ありません。自分の好きな時に参加して活動出来るので、自然やアウトドアスポーツに興味がある方や大勢で何かやってみたい方は気軽に参加してみてください。

写 真 部

谷 田 耕 一 (生物機能工学専攻2年)

写真部は課外活動共用施設内の暗室で活動しています。各部門が好きなときに、好きなものを、好きなだけ写真を撮り、現像（白黒）をしています。また、技大祭では写真展を開き、一人5作品程度出品しました。

経験者も未経験者も大歓迎です。“ちょっと現像だけやってみたい”と言う人でもいいです。お待ちしております。

フットサル愛好会

近 藤 真 樹 (電気電子情報工学課程4年)

フットサル部では、毎週(火・木・金)の16:00~19:00に体育館で活動を行っています。基本的に練習は毎回ミニゲーム形式で行い、基礎練習のようなことはしません。部活というような硬い感じではなく、楽しく活動することに重点をおいています。

昨年発足したばかりのサークルで、初心者も多く、しかも、昨年度は地震で半年間活動できなかったのが技術的にはほとんど進歩がない（かもしれない）です。いまが入るチャンス！ということでとりあえず体育館に見学にきてください。歓迎するので。

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「新入生へ」

狩野 剛

(電気電子情報工学専攻2年)



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さん新しい生活に少なからず不安があると思います。不安は新しい仲間や目標を見つけることによりすぐなくなります。新しい仲間は実験の班やサークルに入るなど、出会いは多いので自分から積極的に行動していけばすぐに出来ます。また、ここは全国各地から人が来ているので、いろんな話や方言が聞けます。目標は勉強やサークルなど、人によって様々でしょうが見つけることにより学生生活が充実すると思います。

講義の内容や多さに戸惑うかもしれませんが、それは最初だけです。自分の興味ある講義を選ぶのですから、

だんだんと講義が楽しくなってくるはずです。また、自分の専門でなくても興味があれば他分野の講義を受けて視野を広げるのもいいと思います。

長岡は冬になるとかなりの雪が降ります。雪が降ると自転車やバイクでの移動は、ほぼ不可能になってしまいます。また、車を持ってもどこかに行くためには雪かきをするという重労働が待っています。

ここは自分で動かなければならないところです。しかし、動けばいろいろな発見があります。皆さん自ら動いて、新しい大学生活を楽しんでください。

新 入 部 員 募 集

サッカー部

松岡 直樹 (建設工学課程4年)

サッカー部の活動として、平日は16時半から毎日練習しており、休日は月に3回程のペースで試合をしています。毎日練習しているとどうしてもそれぞれバイトや実験などでこれない日があるので来れる日に来て練習をするという感じで活動しています。ですから気軽に入学して頂いてけっこうです。

現在の部員は15人ほどでとても少なく困っております。それもほとんどが大学院生と4年生なのでこのまま新入生が入らないとサッカー部はおしまいです。新入生でサッカーの経験者はたくさんいると思うのですが、その人たちは是非入部して下さい。また大学からサッカーを始めようとする人も大歓迎です。みんなでサッカーを楽しみましょう。

サッカー部に入学したら学校生活が本当に楽しくなることは私が保証します。サッカー部はとても仲が良くみんな明るいので居心地がいいからです。月1回のペースでやっている飲み会は本当に盛り上がります。サッカー部員は少ないのですが入学した人はみんなサッカー部を気に入っており今まで退部した人は一人もいません。そんなサッカー部に新入生のみなさんも入ってみませんか? 真剣にサッカーをやりたい人、てきとーにサッカーをやりたい人、遊びでサッカーをやりたい人、なんでもいいです。それからマネージャーも募集しています。サッカーに少しでも興味がある人はお願いします。

アメフト部

森谷 拓郎 (電気電子情報工学課程3年)

私たちアメフト部は信越の地域協会リーグに所属し、春と秋に行なわれる大会に向け練習をしています。練習は平日も行ないますが、主に週末に団体練習をしています。

アメフトは、ハードですが他のスポーツには無いやりがいや達成感のあるスポーツです。プレーヤーはもちろん、マネージャーも随時募集しています。興味のある方はぜひ一度、ラグビー場まで見学に来てみてください。

陸上競技部

佐藤 満 (建設工学課程3年)

僕達陸上競技部は部員分約20人。大会などに出るための人もいれば、体をきたえる目的の人もいます。春から本格的に活動開発となり、インカレ予選、国体予選、関東甲信越大会、大町ロードレースなどたくさんの大会に出場しています。又、市民マラソンなどの気軽に参加できる大会にも参加しています。他には飲み会や、レクリエーション企画も実施します。

大会に出場したい方、体をきたえたい方、先輩達と仲良くなりたい方、どんな目的の方でも気軽に陸上部を訪ねてください。

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「新入生へ」

河村 好範

(材料開発工学専攻2年)



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今、これからの大学生活に対して期待と不安で一杯だと思います。誰もが充実した生活をイメージしていることでしょう。しかし、大学生活はとても自由なものでそれを充実させるのは意外に難しいと思います。何の目的も持たないまま日々過ごしていたのでは、何も残らないで大学生活が終わってしまいます。そこで、有意義な時間を過ごすためにバイトもいいですが、サークルに入ってみてはどうでしょうか。サークルに入ること、他課程の先輩や友達ができ、より一層楽しい大学生活が送れると思います。

次に、皆さんが気になっている講義・レポート・研究について簡単に書きます。学部では講義とレポートが中心であるのに対して(レポート提出を忘れずに)、修士ではほとんど研究とゼミに時間を費やします。修士における研究は、指導教員のサポートがありますが、実質的に自分で計画を立てて実験を行わなければいけません。学部の人は効率的に研究を進めるために、学生実験をしっかり取り組んでおくことを進めます。

新入生の皆さん、これから講義や研究で大変だと思いますが、思う存分大学生活を楽しんで下さい。

新 入 部 員 募 集

P M C

知久 晃治 (電気電子情報工学課程4年)

今年度もまた春がやってきました。そこでPMCでは、バンドを組んで音楽活動をやりたい人、音楽の好きな人、新たな気持ちで何かを始めようという人を大募集します。

PMCの活動内容は、各バンドごとに練習を重ね、年に5回ほどあるPMCライブにて練習の成果を発揮するというものです。また、PMC内にはオリジナルバンドを組み、ライブハウスを中心に活動している人達もいます。

楽しいサークルなのでみんなで音楽を楽しみましょう。



技大祭でのライブの様子

ベンチャークラブ

坂大 靖 (生物機能工学課程4年)

こんにちは。技大ベンチャークラブです。

突然ですが2年後、4年後の自分を想像してみてください。どんな自分がいますか？このサークルは自己実現と人脈のコミュニティ形成を目的に活動しています。

現在の主な活動は中古教科書の買い取り販売や株式投資、県内大学生ネットワークの構築です。これらの活動はあくまでも例で、これに参加するだけでなく、新たな企画を立ち上げることも可能です。

このサークルでは積極的な活動を通し、学校での勉強では得られない体験をすることができます。

これに必要なものは自分から積極的に動き始めようという意欲だけです。なりたいたい自分になるために、なりたいたい自分を探すためにこのサークルを利用してください。

有意義な学生生活を送れるかどうかは、あなた次第です。



写真の人文字はGidai Venture Clubの略称

留学生年間行事

4 April	・バザーと新入生歓迎会（むつみ会主催）	10 October	・バザーと交流会（むつみ会主催） ・外国人留学生等実地見学旅行 ・長岡国際祭り（留学生会主催）
5 May	・バス旅行（むつみ会主催）	11 November	・留学生等交流懇談会 ・長岡市内めぐりバスツアー （長岡市国際交流協会主催）
6 June	・座禅（むつみ会主催）	12 December	・国際交流の夕べ （新潟地域留学生等交流推進会議主催）
7 July	・国際親善交流の夕べ（深才公民館主催） ・送別会（むつみ会主催）	1 January	・ホームステイ
9 September	・外国人による日本語スピーチコンテスト（むつみ会主催）	3 March	・外国人留学生と日本人学生の交流スキー研修 ・送別会（むつみ会）

先輩留学生から

新入留学生へのメッセージ

Message

「夢を実現できる場」

私が長岡にきて五年が経ちました。でもその間、月日の流れを感じることはありませんでした。技大での生活がそれほど充実して楽しかったからです。

技大での生活には毎日の勉強はもちろん、それ以外にも楽しいことがたくさんあります。都会の生活と違って地元の人々と友好的な交流ができることはその一つです。長岡の人々の温かな心に触れられたことはとてもいい思い出です。私は新潟市から長岡市に初めて引っ越してきた時、静かな街としてとても良い印象を受けました。最初の冬も雪遊びができてとても楽しかったです。と言っ

タンドゥカール マダン

（エネルギー・環境工学専攻5年、ネパール出身）



でも、中には長岡の気候を嫌う人もいます。ある友人は「長岡では一日の内で四季を感じることができるよ」といっていました。よくよく考えてみるとそれは本当なのかもしれません。けれど、それはそれで長岡の楽しみの一つだと思います。

このような長岡での生活を一つ一つ大事に楽しみながら、技大生になったことに誇りをもって自分の夢に近づくための大きな一歩を踏み出しましょう。ここはそれが実現できる場です。みなさんのご成功を心からお祈りしています。

新 入 部 員 募 集

少林寺拳法部

後 藤 義 宏（生物機能工学専攻2年）

～ご入学おめでとうございます。～

少林寺拳法とはイメージ的には合気道と空手をたして2で割ったような武道で、蹴りや突きを中心とした剛法、掴みに対する関節技を中心とする柔法があります。少林寺拳法は「流派」と呼ばれるようなものはなく団体として練習方法が確立されており、一つ一つの技を丁寧に練習でき又、今後、全国どこに行っ

ても、ずっと続けていける武道であるという特徴があります。初心者でも大歓迎です。大学でなにかを始めようと思っている方、是非一度練習を見に来てください。



武道場にて

留学生のホームステイ体験記

『ホームステイ体験記』

サブリーナ アラム カーン

(材料工学専攻4年, バングラディッシュ出身)

私は最初、ホームステイにはあまり興味がなかったのですが、他にお正月の予定がなかったので、申し込み、マレーシアの留学生とともに1泊しました。

大晦日の夕食には寿司、天ぷらなどの代表的な日本料理や、海老のカレーなど思い出すのが大変なほど沢山の馳走をいただきました。夕食後に奥さんが折り紙を教えてくださいました。ですが、手先の器用さと色彩感覚を要求される折り紙は、私には難しすぎました。

深夜近くの神社へお参りに行き、甘酒をいただきました。日本の伝統的な方式で新年を迎えるのは少し不安でしたが、神社にいる人たちと挨拶を交わしたりするのは面白かったです。神社から帰った後、私は着物を着せて頂き、今度は弥彦神社までお参りにいきました。多くの人と一緒に、私も今年1年の幸せをお祈りしてきました。

たった1泊のホームステイでしたが、暖かいおもてなしのおかげで、まるで母国の我が家で新年を迎えたかの

ような嬉しい気分を味わいました。

言葉の壁が問題にならないほどの素晴らしい交流を通じて、日本の文化に触れることができました。この貴重な体験は、いつまでも私の心に残ることでしょう。



深夜の神社にて(筆者は右端)

留学生等スキー研修報告

『今年の忘れられないスキー研修』

チャイン チャイン ラット

(エネルギー・環境工学専攻3年, ミャンマー出身)

私は日本に来てから、二回目のスキー研修に技大の日本人や外国人の友達と一緒に参加しました。今回の留学生と日本人学生の交流スキー研修は、マウンテンパーク津南で3月4日から3月5日にかけて行われました。スキー場に到着して、スキー実習の時間には、私たちは自分のレベルによってクラスに分けられて、インストラクターにスキーやスノーボードの滑り方を教えてもらいました。

スキー研修は、初めて参加した学生には貴重なレッスンでした。12カ国から60人が参加しました。先生のインストラクションの他、上手になった先輩が後輩に自分の母国語で説明してあげたので、いろいろな言葉を聞きました。そして、フリータイムの時には、先生から習ったとおりに滑って、よくできました。

私を含め、ビギナーたちは最初に、何回転んでも痛くてもあきらめなくて忍耐強く練習し、最後には楽しく滑ることができました。私は怪我をしないように、安全な転び方も体のバランスと同じように重要だと思いました。

夕方の懇親会が終わっても皆は早く休まないで会話を楽しんだり、カラオケをしたり、ダンスをしたりして、遅くまで友情を育てその夜を過ごしました。

3月の終わりに卒業する友達たちにとっては今回のスキー旅行が最後の行事ですので、悲しい気持ちに印象に残っている旅行でした。また、一年後のスキー研修を楽しみに待っている学生もいるでしょう。



(筆者は右端)

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「GO AHEAD!!」

宇野 忠 浩

(建設工学専攻2年)



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。私は本学に入学して今年で6年目を迎えました。私の地元は大阪府であり、6年前に本学のある長岡へやってきました。皆さんの中にも、私と同じように長岡に足を踏み入れるのがはじめての方もいらっしゃるでしょう。この土地の風習に触れ、様々な経験をされると思いますが、何事にも情熱的にチャレンジしてもらいたいと思います。将来の事を考えることはもちろん大切ですが、何よりもまず「今」という時間を大切にしてください。学業に打ち込むと同時に、自由な時間と若さのエネルギーを使って、色々なことに積極的にチャレンジして下さい。

技術は刻々と革新されています。長岡技術科学大学はその名の通り、「技術」を「科学」する大学であります。充実した研究設備やその道のエキスパートである先生方が新入生の皆さんを大いにサポートし、時代の変化に順応できる優秀なエンジニアに導いてくれることでしょう。

新入生の皆さん、充実した大学生活が送れるようにがんばってください。

新 入 部 員 募 集

剣道部

中 野 恒 平 (機械創造工学課程3年)

剣道部は部員も少なく、加盟地域が北信越と広範囲のため、ここ近年、大会参加数も減ってるが現状です。試合、剣道をやるにあたって、ただ勝つだけの剣道ではなく、正しい、まっすぐな剣道。審判を、来賓を唸らせるような剣道をしたいと思いませんか？一足一刀の間合いを基準に、お互いの竹刀より繰り出されるかけひき、そして…一本！そのときの感動は計り知れません。

初心者の方でも大歓迎です。部員一同心よりお待ちしております。



硬式テニス部

矢 木 宏 典 (機械創造工学課程4年)

硬式テニス部は過去にテニス経験のある人だけでなく、大学からテニスを始めたという人もたくさんいます。試合に勝つ事を目的にしている人もいれば、テニスを楽しみたい人、覚えたい人など様々です。試合に出る人は市の大会だけでなく最近では大学の試合にも積極的に取り組んでいます。部全体の雰囲気としては、練習中も全員の笑いが絶えない非常に明るい部活で、練習中だけでなく飲み会の場などでも明るくとてもいい部活です。新入生の皆さん、ぜひ一度コートまで気軽に足を運んでみてください。



先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「今」という時間を大切に

菊池 孝

(環境システム工学専攻2年)



みなさん、ご入学おめでとうございます！心より祝福申し上げます。入学（編入学）された方たちは、2～4年間の学部生活を経て、修士課程への進学、もしくは卒業されるわけですね。何年間とか言うと、とても長い期間のように感じます。しかし、これは「お約束」というか、実際は非常にあっという間に過ぎてしまいます。もっと色々なことに挑戦しておけばよかったと、後悔先に立たずとはよく言ったものだと痛感します。

そんな後悔まみれの僕がアドバイスというのもアレですが、一つ言えることは、「学部時代はよく遊べ」と。たくさんの友人を作り、いろいろな経験を積んでくださ

い。修士になり、研究室配属されると同級生と顔をあわせる機会がほとんどなくなります。学部時代に広い人間関係を作っておいてください。そうすれば、楽しい技大生活が送れると思います。勉強が心配だという方もいると思います。でも、普通に入学して来られたなら大丈夫！真面目に講義に出席すればなんとかなります！…それに、修士になれば嫌でもするはめになりますので…。また、早いうちに将来のことを具体的に考えておいたほうが良いと思います。どんな職業に就きたいのか？そのためには、どうするのがベストか？みなさんの学生生活が充実したものになるよう祈っております。

新 入 部 員 募 集

航空部

貝賀 崇 司 (機械創造工学課程4年)

航空部では、主にモデルロケットの製作及び打ち上げを行っています。具体的には紙や木、プラスチックなどを主な材料とした機体を、火薬（エンジン）を用いて打ち上げ、パラシュート等により回収します。大きさも様々で、大きい物は4m近くの物もあります。高度や滞空時間などを競う競技もあり、実際に航空部では筑波で行われる大会に参加しています。毎週木曜日PM8:00より講義棟1階学生ホールにてミーティングを行っているの、興味のある方や物作りの好きな方は是非来てみて下さい。



定例打ち上げ会にて

合気道部

青 木 優 (電気電子情報工学課程4年)

合気道って何?という方が多いと思います。体に触れず相手を投げちゃったりはしません。合気道は和の武術と言われています。相手を倒すことではなく、相手を“制する”こと、これが合気道です。

合気道には試合がありませんし、大学に入って始めた人がほとんどですので、初心者の方でも大丈夫です。また、合気道は護身術としても知られていますので、女性の方にもオススメです。武道に興味がある方、ちょっと運動がしたい方、袴を履いてみたい方、一度見学に来てみて下さい。



2004年技大祭演武にて

先輩より

新入生へのメッセージ

Message

「意欲」

山本 裕子

(生物機能工学専攻2年)



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に戸惑うこともあると思いますが、長岡での生活を満喫させて下さい。充実した生活を送るには勉強・スポーツ・アルバイト…いろいろありますが決して暇を持て余すことだけはしてはいけません。せっかく大学に来たのだから、自分が熱中できる何かを探し、それに向かって邁進することが、学生生活を有意義に過ごす一番大切なことだと思います。

ご存知のように大学という所は大変自由な場所です。勉強しなくても誰も何も言いません。全ては自己責任ということなのです。そういった面から見れば厳しいかもしれませんが、意欲のある人間には大いにチャンスが与えられる場なのです。私はこの大学でチャンスをつかん

だ人間のひとりです。高校時代は文系だったのですが自分がやりたいことはこのままではできないと気づき、進路を一気に理系に変更しました。入学初期はもちろん授業にもついていけず、先行きが大変不安でした。しかし自分が出した決断を後悔することだけはしなかったもので、友人や先生に教えてもらいながら必死に勉強しました。この出来事は私にとって人生最大の挑戦で、この試練を乗り越えられたことは大きな自信と成長に繋がりました。何か目標を持って生活するときと得られるものがあるので意識してみしてほしいです。数年後、皆さんが卒業する時に技大に来てよかったと思えるような学生生活を送って下さい。

新 入 部 員 募 集

吹奏楽部

山本 慎 (電気電子情報工学課程3年)

こんにちは！吹奏楽部です！

私たちは夏に行われる定期演奏会を中心に、仲の良いメンバーで楽しく活動しています。また県内の7大学間で行われる吹奏楽交歓会、ウインドアンサンブル演奏会などで他大学との交流もあって新潟中に友達が出来ます！経験者はもちろんのこと初心者も大々歓迎です!!個人で楽器を持っていない人も大学に楽器があるのでだいじょうぶです。ので、吹奏楽に興味がある方、楽器をやってみたい方はぜひ共用施設に遊びに来て下さい！



集合写真in夏

茶道部

森竹 典子 (電気電子情報工学課程3年)

茶道部は、毎週水曜日、先生宅で作法などの稽古をしています。年に数回お茶会を催しており、お茶会が近くなると大学の福利棟2階にある和室でも練習しています。

茶道歴のある方もない方も大歓迎です。ぜひ気軽に見学に来て下さい。まずは、抹茶を飲んでみませんか？美味でございます。



先輩より

新入生へのメッセージ

Message

『入学に際して』

桐 生 紘 輔

(経営情報システム工学専攻2年)



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。私が長岡に来たときの第一印象は“寒い”でした。皆さんはいかがでしょう？

私は皆さんにアドバイスをできるような立場の間人ではありませんが、私のこれまでの経験（たいした経験ではありませんが）を踏まえてメッセージを送りたいと思います。少しでも参考にしてもらえれば幸いです。

まず、大学生活では“何をして”そこから“何を学んだか”ということが非常に重要になります。ただやるだけでは不十分で、そこから学んだことを自分の言葉でしっかりと表現できることが大事です。私は、社会に出る前の貴重な数年間を何となく過ごすのはもったいないと思っています（もちろんどう過ごすかは個人の自由です）。

とりあえず手当たり次第チャレンジしてみたいはいかがでしょうか？モチベーションが上がらないようでしたら、積極的な大学生活を送っている先輩方や大学の先生方、留学生の方々にアプローチして話を聞いてみるだけでも見方が変わってくると思います。もちろん私はいつでもウェルカムです。私もこの大学へ来て多くの人と出会い、いい刺激をもらいました。人との出会いを大切にし、ビジョンをモチベーションに変えてメリハリのある大学生活を送ることができれば、きっと楽しくて充実した日々となることは間違いないと思います。お互い頑張ってくださいませう。

新 入 部 員 募 集

悠久太鼓愛好会

荒 井 潤 (機械創造工学課程4年)

悠久太鼓愛好会は長岡に伝わる悠久太鼓の演奏を主な活動としています。長岡まつり前には祭りの景気づけに市内近郊の幼稚園や老人福祉施設などで演奏し、長岡まつりでは他団体と一緒に叩く「100人太鼓」の演奏もしています。写真は長岡まつり時の集合写真です。また、夏以外でも、サイノカミ・雪しかまつりなど、幅広く活動を行っています。練習は毎週水曜日16:30から課外活動共用施設1階のピロティにて行っています。一緒に楽しく和太鼓を叩いてみませんか？



準硬式野球部

鈴 木 幸 治 (建設工学課程4年)

はじめまして。現在、部員は16名で活動しています。高校、高専まで野球漬けだった人、中学まで野球をしていた人、バウプロで野球にハマッタ人、野球拳が大好きな人、野球歴はみんな様々です。活動は基本的に月～金曜の夕方から日が落ちるまでやっています。軟式野球部ですが準硬式野球をやっています。このチームにとっての目標は、全国準硬式野球大会（大学生にとっての甲子園みたいなもの）に出場することです。昨年は残念ながら地区大会2回戦敗退に終わり、「今年こそ優勝するぞー!」と、みんな熱くなっています。部活の様子は、上下関係は全くなく、みんなワキアイアイで楽しく野球をやっています。もちろん大会前は真剣です。

準硬式野球部に入ろうと思う人、また興味のある人は、野球場まで見に来て下さい。きっと、最高のプレーと笑顔で、部員とマネージャーがあなたを迎えてくれることでしょう。



「開発途上国のためのself-sustainableなエネルギー最小消費型の下・廃水処理技術の創成」

新潟日報文化賞は、新潟日报社によって、新潟県の県勢伸長と県民生活の向上を目的として、昭和23年に制定され、産業技術、学術、芸術、社会活動の四部門での顕著な業績に対して与えられる名誉ある賞で、本学水圏土壌環境制御研究室（代表：原田秀樹教授）が平成16年度の産業技術部門で受賞されました。その研究内容を以下に紹介して頂きました。



環境・建設系 教授

原 田 秀 樹

◆インドの首都デリーからヤムナ川沿いに150km北に遡上したところにカルナール（Karnal）という人口30万ほどの典型的な農村都市がある。いまそこで、我々の研究室が開発した革新的廃水処理技術の大規模実証プラントが稼働している。2002年10月より、大学院生やポスドクが常時滞在しながらインド政府環境森林省（MOEF）との国際共同研究を展開している。この、われらが“プロジェクトX”に対して、「開発途上国のためのself-sustainable なエネルギー最小消費型の下・廃水処理技術の創成」というタイトルで、平成16年度の新潟日報文化賞（産業技術部門）を戴いた。この賞は、個人としてではなく、チーム（研究室）として戴いた。現地で苦勞しながら貴重なデータを採ってきた学生諸君、そしてこのプロジェクトを支えて来て下さった学内外の多くの方々に、この場を借りてあつく感謝申し上げます。

◆汚染された水に起因する疾病は、開発途上国では最も深刻かつ緊急を要する環境問題である。開発途上国では生活排水、産業排水が未処理のまま垂れ流しにされており、河川等の公共水域の水質汚濁が深刻化している。その結果、WHOによれば、途上国の全疾病の80%は汚染された水に起因するコレラ、下痢等の水起因疾病（WID）であり、年間約170万人もの死亡要因になっているという。なんと、ジャンボジェット機10機が毎日、毎日墜落していることに相当する。しかも、乗客の9割は5才未満の子供たちである。このような危機的状況のなかで、インドでは、ガンジス川浄化行動計画（GAP）、ヤムナ川浄化行動計画（YAP）という大国家プロジェクトが進行中である。ガンジス川は全長2500km、その流域に4億人あまりの人々が生活する、文字通り一本の河川が支える人口としては世界最大の河川である。そしてヤムナ川は、ガンジス川全流域面積の40%を占める最大支流の大河川である。いま、GAPとYAPの国家プロジェクトでは、この死に瀕した両河川の浄化のために流域沿いに膨大な数の下水処理場を建設しようとしている。

◆われわれの研究室では、途上国の人々の環境衛生に重大な脅威を与えている劣悪な水環境汚染を修復・再生するために、低コストでエネルギー消費量が小さく途上国地域でも適用可能な下・廃水処理システムを、長年にわたって開発してきた。われわれが開発してきたUASB-DHSシステムという処理技術は、嫌気性微生物を使った前段処理で有機物の粗取りをして、後段に好気性微生物で有機物除去のポリッシュアップと窒素除去を成し遂げるものである。詳細な技術的説明は専門的過ぎるのでここでは避けるが、バイオリアクターでのユニークな微生物の保持方法によって、人為的エアレーションをまったく不要にして、プロセスのランニング・コストを1/5か

ら1/10まで低減した革新的技術である。世界中の研究機関がしのぎを削って展開してきた“途上国地域の持続可能な下水処理技術”の開発競争に打ち勝って、われわれのUASB・DHSシステムは世界を数歩リードする形になった。インド政府は、このUASB-DHSシステムという新規技術に注目し、3回にわたって長岡技大に技術調査団を送り込んで、この技術のノウハウを吸収し、前述の国家プロジェクトYAPの枠組みのなかでカルナール市に処理日量1000トン/日（処理人口7000人）規模の実規模プラントを建造した。こうして、われわれの研究室との国際共同研究がスタートした。

◆カルナールの実証プラントは外部からの人為的エアレーションを付加せずとも、BOD除去率95%と、既存の活性汚泥法に匹敵する卓越した処理性能を発揮した。インド政府環境森林省（MOEF）はこれを高く評価し、2003年度版の「環境白書」で大きく採りあげた。インド政府は、この実証試験の好成績を踏まえて、ヤムナ川沿いのアグラ市（タジ・マハールで有名）に処理人口7万人規模の大型の実プラント建造の計画に着手した。これまで本邦オリジナルの環境保全技術が国外で普及した例はない。本プロジェクトが成功すれば、インドのガンジス川・ヤムナ川流域に我が国の科学技術が創成した下・廃水処理プロセスが一挙に多数普及することになる。さらに、インドから途上国世界全体へと大きな社会的波及効果が期待できる。まさに、われわれの研究室が創成したオリジナル技術が世界標準になり、我が国の途上国地域への真の国際貢献として大きな意義を持つとともに、世界に誇るべき知的資産の形成と云える。



長岡で生まれた環境技術がインドから世界標準技術へ（インド、アグラのタジ・マハール門にて：左から、小野寺（M1）、原田（筆者）、大久保（M2）、上村（木更津高専・助教授、S63原田研究室出身）

卒業生 だより

社会人三年目を迎えて

大 瀨 貴

勤務先：株式会社 キタック
技術第一部

(平成15年3月 建設工学専攻修了)



私が大学を卒業し、社会に出てから3年の月日が流れようとしています。この3年間は、学生の頃とはまったく異なった世界での生活に、何とか適応しながら闇雲に突き進んできました。

私は建設業界で働いています。

建設業界では、道路や橋など比較的大きな建物を建設するのですが、何を作るにも「1.計画、2.調査、3.設計、4.施工」というステップが必要となります。わが社は、「2.調査」や「3.設計」を主な業務としており、私の仕事は、建物や道路等を設計するときに必要な地盤の情報を調査するというものです。

私は学生時代、地盤工学を専攻していましたので、地盤調査の分野は、自分の学んだことを活かせるフィールドだと思っていました。しかし、地盤工学以外にも水理学、構造力学など建設工学全般を広く身につけなければ地盤の情報を正確に分析することはできないのです。また、技術も日々進歩するため、仕事をこなしながら、足りない知識を補うために勉強しなければなりません。学生の頃は勉強することが仕事のようなものでしたが、社会人になってもそれは変わらず、むしろ、社会人になってからのほうが勉強に対する意識が高くなったと言えます。

ところで、2004年は大変な年になってしまいました。7.13水害に中越大震災です。被災した方々には心よりお見舞い

申し上げます。私が学生時代に暮らしていた所も、地震によって半壊といった被害を受けました。自分が4年間暮らした町が被災した状況を目の当たりにして、非常に悲しく思います。

自分も復興の役に立ちたいと、建設コンサルタントの立場から災害復旧に従事し、7.13水害では五十嵐川や刈谷田川に関する調査に携わり、中越大震災の折には、余震の続くなか、小千谷～川口町の信濃川堤防点検に向かったりもしました。災害復旧はこれからが本番ですが、長岡で学んだことを新潟県に恩返しするために、これからも復旧業務に携わることができればと思います。



筆者は左

後輩へのアドバイス

長谷川 師 央

勤務先：ソニーセミコンダクタソリューションズ

ネットワークカンパニー (SSNC)

応用技術部門 応用技術2部1課

(平成15年3月 電子機器工学専攻修了)

SONY

長き(短き?)大学生活を終え、社会人エンジニアとして働いている現在、毎日を適度な緊張感を持ちつつ業務に勤しんでいます。その他、自分で必要だと判断した知識は、電車に乗っている時間などの空き時間を利用して勉強をしています。

大学、または研究室で学ぶような専門的な知識は確かに必須なものでしょう。しかし、職場によるとと思いますが、もしかすると専門知識よりも重要になると考えられる能力は、国語力と英語力ではないかと思います。

まず国語力についてですが、皆様もレポートや論文を書いたことがあるはず。社会に出ても当然このようなものを書きますし、会議等の議事録を書いたりもします。そこで大事になってくるのが、いかに要点を捉えたものが文書として残せるかの能力であると思います。国語は昔から

苦手だからとあきらめず、これらの文書を提出する前に、一度推敲してみてください。少しずつではありますが、何か力が付いたと実感できてくる筈です。

次に英語力ですが、現在は誰もがご存知であるように、国際化の時代です。外国人と話す機会もあるでしょうし、仕事で外国に行く機会もあると思います。また、最新の専門的な分野の仕様書は、英語で書かれているものがほとんどです。現在英語力に自信が無い、または今まで英語を敬遠していた皆様。思い立ったが吉日です。早めに取り組んでください。無駄にはなりません。



大学の仲間と店の女将(筆者:左)

タイ・タマサート大学との遠隔中継ロボコン大会

明田川 正 人
(機械系 助教授)

タイ・タマサート大学と本学との対抗戦の形式で、テレビ会議システムを用いた遠隔中継ロボコン大会を、1月13日(木)開催しました。国際協力機構のタマサート大学・工学部拡充プロジェクトに本学が協力して以来、両大学の交流が始まり、大学間交流協定に発展しております。ロボコン大会もその一貫の行事として毎年開催し、本年度で5回目を数えます。

今年のロボコンのテーマは、「Treasure Hunting :宝物探し」です。自立走行型トレースロボットが、コース内にある宝物を収集し、ゴールまでいかに速くたどり着くか、という競技です。本学から、機械系3年・設計演習C(ロボット製作を通して設計演習を行う)から2チーム、タマサート大学電気系より2チーム参加し、コンテストを行いました。本学のAチームのみが宝物を全て集めコースを完走し優勝いたしました。(残念ながら、残りの3チームは完走出来ませんでした。)この結果、本年度は長岡技大の勝利で、通算成績は本学の4勝1敗となりました。今後もタマサート大学とはロボコン、あるいは学生交換を通じて交流を深めて行きたいと思います。



タマサート大学との中継の様子



宝物を集めてゴール!

SCS回線を使い「インターンシップ推進フォーラム2005」に参加

2月21日(月)、文部科学省の主催により「インターンシップ推進フォーラム2005」が東京で開催されました。このフォーラムは、産学連携教育の一環としてインターンシップの普及をはかるため、大学と企業等関係者の交流の場として毎年度開催されています。

今回は、「高度人材育成を目指す新しい産学連携教育の実現に向けて」と題して、東京の学術総合センターをメイン会場に、SCS(衛星通信を利用した大学間ネットワーク)回線を利用して、本学を含めて全国72のサテライト会場とつないで行われました。

本学からは、丸山理事・副学長が、午後のパネルディスカッションⅠにパネリストとして参加し、「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「本学の長期実践型実習である実務訓練制度」を紹介するとともに、討論に加わりました。また、パネルディスカッションⅡでは、メイン会場とSCSを利用したサテライト会場間での双方向の質疑応答が行われ、活発な意見交換が行われました。



本学E講義室



学術総合センター(東京メイン会場)

学生による小学校への 出前授業の試み

下 村 匠
(環境・建設系 助教授)

環境システム工学課程3年生の学生4名(植田城治君、今野宏樹君、只石豪太君、露崎知弘君)が、長岡市内の小学校に出向き、環境工学に関する出前授業を行った。小学生からは「熱心に話す大学生の授業は楽しかった」と好評を得た。授業を行った本学学生は、小学生を前に専門的な事項をわかりやすく話さなければならないプレッシャーと、成功裏に終わった達成感から興奮気味であった。この出前授業の様子は、新聞、テレビ等でも報じられた。

本学学生が小学校で授業を——その経緯は以下である。この企画は、建設工学課程と環境システム工学課程3年生を対象に開講されている授業「建設工学テーマセミナーⅡ／環境テーマセミナー」の一環として行ったものである。この科目は、各教員が通常の授業とは一味違う興味深いテーマの演習を提案し、受講を希望する学生により少人数セミナー形式で行うものであって、環境・建設系が数年来続けているユニークな科目である。

小学生への出前授業の狙いは、当初、「専門的な事項を一般の人にわかりやすく正しく伝える能力」、いわゆる「技術者の説明責任」のトレーニングということであった。プロの技術者が一般市民に向かい合う構図を、専門家の卵たる大学生と純真無垢な小学生との関係になぞらえ、ちょうどよい演習となるのではと考えたのが発端で

ある。しかし、集まった有志学生と一緒に準備を進めてゆくうち、この活動は単に彼らの演習にとどまらず、事務局、相手方小学校、マスコミも巻き込み、いつの間にか私ものめりこんでいた。

小学生にわかりやすく、飽きられることなく、専門的事項を正しく伝えるにはどうすればよいか。学生たちは真剣に考え、十分に準備、練習し、緊張しながら本番に挑んだ。大学の授業で学生がこれほど興味を持って真剣に取り組む姿は珍しい。はたして、彼らの真摯な思いは小学生に伝わったようで、小学生は熱心に聞き入り、質問が飛び交った。小学校の先生からも、普段の授業ではできない興味深い話を聞かせてもらったと感謝された。

長岡技術科学大学とそこに学ぶ学生の姿を伝えることができたことも大きな成果と考えている。



長岡市立日越小学校4年生に対する出前授業——「ゴミと環境」について準備したスライドと全身パフォーマンスで話す(2004年12月15日)



ご支援に対し厚くお礼申し上げます

長岡工業高等専門学校長 高 田 孝 次

新潟県中越地震で被災した本校に対して、これまで、県内の大学はじめ全国の皆様から多大のご支援と励ましを頂きました。特に、長岡技術科学大学には、地震発生当初から極めて迅速、かつ、手厚いご支援を賜り、今もなお、本年度卒業・修了予定の学生を中心に授業や研究指導でお世話になっております。お陰をもちまして、教育内容を縮減することなく臨時学年暦を編成し、今年度の卒業・修了ならびに進級の処置を滞りなく実施出来ることになりましたことを心から感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

恒久復旧につきましても国立高専機構本部の尽力と文科省のご理解により明るい見通しが立ちました。ただし、工事は地盤の補修を含む大きな規模となりますので、正常な学園生活に戻るまでには相当の時間を要します。現在、学生達には、このような困難な時にこそ若いエネルギーと知恵を発揮し、お互いの連携と絆を深めて悔いの無い高専生活を全うしてくれるようお願いしつつ、教職員一同、力を合わせて復旧に向けた作業に取り組んでいるところです。

この度の震災は図らずも本校の学生が長岡技科大をより良く知る機会となり、また、教職員間の繋がりも広がり深まったと感じております。「災い転じて福となす」の言葉どおり、これを契機に技科大と高専の連携を一層進めることが出来れば幸いと考えておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

平成16年度

進路状況一覧

(平成17年3月25日現在)

事 項 課程・専攻	大学院(修士課程)					学 部					求 人 状 況		
	修了者数	就職者数	進学者数	復職者数	自営者 その他	卒業者数	就職者数	進学者数	復職者数	自営者 その他	求人件数	求人数	求人倍率
機 械 創 造 工 学						110	13	91		6	2,078	1,056	9.7
機械システム工学	59	48	3	6	2								
創造設計工学	51	48	1		2	3		1		2			
電気電子情報工学						119	22	88		9		1,156	10.3
電気・電子システム工学	62	58	2		2	1	1						
電子機器工学	38	31	6		1								
材料開発工学	41	27	12		2	59	12	45		2		789	20.2
建設工学	40	38	1		1	40	8	30		2		748	8.5
環境システム工学	53	40	6		7	48	2	43		3		626	15.7
生物機能工学	39	35	3		1	44	5	37		2		716	65.1
経営情報システム工学						35	11	22		2			
計	383	325	34	6	18	459	74	357		28		5,091	12.8

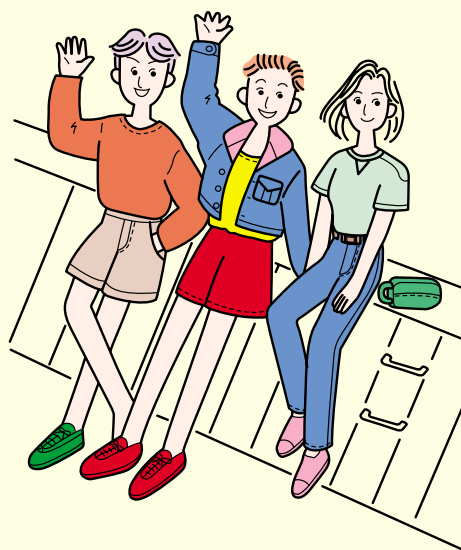
事 項 専 攻	大学院(博士後期課程)			
	修了者数	就職者数	復職者数	その他
情報・制御工学	5	2	2	1
材 料 工 学	14	4	5	5
エネルギー・環境工学	9	4	1	4
計	28	10	8	10

注1. 年度途中修了者を含む。

編集後記

法人化、豪雨による水害、中越地震、19年ぶりの大雪。
平成16年度は本学にとって正に激動の年でした。特に地震による被害が大きかった長岡高専の皆様は大変なご苦労をされたことと思います。新しい年度がスタートします。災い転じて福となす年にしたいものです。本学ならびに長岡高専の皆さんが元気にご活躍されることをお祈りします。

(編集委員)



VOS127号(平成17年4月)

編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)

*本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp

URL: http://www.nagaokaut.ac.jp/